令和４年度第５回社会教育委員の会議　議事録

令和４年度第５回清瀬市社会教育委員の会議が令和４年１２月２３日に開催された。出席委員、議事の大要は次のとおり。

１　日　　時　　令和４年１２月２３日（金）午前９時３０分～１１時００分
２　開催場所　　清瀬市役所２階　会議室２－５（対面開催）
３　出席委員　　（対面参加）
　　西田由美子委員、玉置昌也委員、永嶋昌樹委員、相蘇好委員
４　事 務 局　　峰岸義治（生涯学習係長）、若林幹輝（生涯学習係主事）

１　開会

永嶋議長職務代理者：第５回社会教育委員の会議の開会を宣言。
事　　務　　局：資料の確認
　　高井正議長、齊藤しのぶ副議長、松山鮎子委員が欠席の旨を報告。

（事務局）
　議長及び副議長が欠席のため、社会教育委員条例第４条５項に「議長及び副議長がともに欠けたときは最年長者が議長の職務を代理する」という規定があるため、永嶋委員に職務代理者をお願いしたい。
　本日の流れは、午前１１時頃まで社会教育委員の会議を行った後、引き続き市民協働ルームで教育委員との懇談会を行う予定である。
　今会議は、報告が４件と意見交換を２件予定している。

（永嶋委員）
　それでは、これから職務代理者として進行したいと思う。
　事務局から資料について説明していただいたので、報告等に進みたいと思う。

２　報告

令和４年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第４ブロック研修会の報告について

（事務局）

まず、令和４年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会の第４ブロック研修会の報告である。
令和４年１０月２６日に開催され、西田委員と事務局で参加した。これについて西田委員からご報告をお願いしたい。

（西田委員）
地域が高齢化している中で、「地域活動における繋がりづくりと学びについて」というテーマで、武蔵野美術大学の造形学部の授業事例の発表があった。非常に記憶に残っているのが、４つのテーマで地域を巻き込みながら仕掛けをたくさん作って活性化させるという部分であった。

（永嶋委員）
続いて、第５３回関東甲信越静社会教育委員研究大会の報告をお願いしたい。

第５３回関東甲信越静社会教育研究大会山梨大会の報告について

（事務局）
令和４年１１月１１日に齊藤副議長と西田委員に参加していただいた。年１回各地で実施されている関東ブロックの研究大会で、今回は山梨で行われた。こちらも西田委員からご報告をお願いしたい。

（西田委員）
山梨大会は本来１泊２日の日程であるが、２日目の分科会のみ参加した。色々な地域から参加されていたが、やはり全体が高齢化している印象があった。

（永嶋委員）
参加者がかなり高齢化しているということだが、社会教育委員の方々が参加されているのか。

（事務局）
参加者は全員社会教育委員の方々である。

（永嶋委員）
そうすると社会教育委員自体が高齢化しているということなのか。他市や他県の社会教育委員の状況を把握していないが、全体的にそのような感じなのか。

（事務局）
　近隣の第４ブロック研修会に行くと高齢の方が多い印象はあるが、若い方も混ざっている。

（西田委員）
　混ざってはいるが、第４プロックのグループワークをしたときに孫のような感覚があった。

（永嶋委員）
　地域性や高齢化の割合などもあるのだと思う。

（玉置委員）
　参加者はどの程度であったか。東京でも各自治体から出ているのか。

（事務局）
　各自治体から出ている。

（事務局）
　今コロナで人数制限があるが、関東甲信越静なのでかなり広いエリアから各自治体の委員が３名程度参加している。

（西田委員）
　１日目から参加されている方もいたので、すでに交流ができている方もいて多少寂しい部分もあった。

（事務局）
　一つの分科会で１５０人という認識でよろしいか。

（西田委員）
　一つの分科会で１５０人である。

（事務局）
　各々の分科会にその程度の人数がいるということである。

（玉置委員）
　分科会は選べるのか。

（西田委員）
第３希望くらいまで出した。

（事務局）
今回は抽選ではあったが、お二人とも第１希望に参加していただくことができた。

（西田委員）
人づくりの第１分科会に参加した。齊藤副議長は第３分科会であった。

（永嶋委員）
令和４年度東京都市町村社会教育連絡協議会交流大会・研修会の報告をお願いしたい。

令和４年度東京都市町村社会教育連絡協議会交流大会・研修会の報告について

（事務局）
令和４年１２月１０日の土曜日に開催された。今回は事務局のみで参加してきたので、報告させていただく。場所は昭島市の公民館小ホールで行った。時間は、午後１時３０分から午後４時３０分までの３時間で開催された。一部が交流大会で、各ブロック研修会の実施の報告があり、二部では講師を招いての研修会を行った。
各ブロックの研修会で印象に残った発言を紹介したい。
まず、立川市の「学社連携ではなく学社一体という考え方が大切。コロナ禍を経験し、社会教育で大切なのは継続することと柔軟な対応という二つだと感じている。二つは矛盾しているように聞こえるが、この二つが大切。また、人の育成を行うことと団体を越えた連携が大切だと思った。」というお話であった。
次に、日野市から「社会教育は、楽しくなければ社会教育ではないというのが社会教育委員の合言葉になっていて、日野市では、わくわくどきどき学びあえるまちを目指している。」というお話があった。
続いて武蔵野市は、小中学校の音楽の支援として、市内小中学校の吹奏楽部の希望に応じて武蔵野市民交響楽団のトレーナーや団員を指導に派遣しているということであった。「むさしっこバンド」という名称で、交響楽団と市内中学校で合同演奏を行っており、メンバー募集の案内を市内の小中学校に送付し、未来の準団員を確保する狙いがあるということである。また、そこが多世代の交流の場にもなっているとのことで、市民文化祭の議論の多世代交流に繋がるようなお話だったので、非常に印象に残った。
続いて、第二部の研修会の方では、「孤独を解消する。誰もが対話し、繋がる社会へ」というテーマで講演があった。今年度の都市社連協の共通テーマが、「市民のニーズを生かす、

つなげる社会教育」で、サブタイトルが「対話から作ろう、これからの学び」というテーマなので、テーマに沿って二名の講師から講演があった。

一人目は、株式会社オリイ研究所のオリヒメパイロットの直樹氏であった。この方は、重度の心臓病になり心臓移植で治療に専念するために仕事を退職され、家族と離れ離れの生活を送っていて生きる意欲を失っている時に、株式会社オリイ研究所の事業の「分身ロボットカフェ」という仕事に出会い、接客でお客様と対話する中で再び生きる意欲を取り戻したというお話があった。分身ロボットカフェとは、オリイ研究所が運営する日本橋にあるカフェのことで、外出困難者の方や全身付随で動けない方などが従業員となり、分身ロボットのオリヒメを操作しながら、接客サービスを提供している。

二人目は、ＮＰＯ法人東京子供ホスピスプロジェクト代表理事の佐藤氏である。代表を務めるＮＰＯ法人で、病気の子供や家族の相談窓口学校や幼稚園保育園に通えずに制限された生活を送っている子供たちへの学びや遊びの機会を提供する事業を行っている。学びの機会を提供するため、この分身ロボットのオリヒメを使用しているということであった。

（永嶋委員）

研修会の報告は、１つあたり１０分程度か。

（事務局）

１０分程度でした。

（永嶋委員）

分身ロボットを実際に見てみたいと思ってしまった。

（事務局）

ロボット自体は小柄なものから大きなものまである。直樹氏が操作されていたのは小さいロボットで、直樹さんは外出が難しいのでロボットを通じて相手の顔を見ながらお話ししている。カフェに設置しているロボットはかなり大きめで、１４０センチぐらいあるようなものだった。

（永嶋委員）

直樹氏は映像とかで出ているわけではなく、オリヒメロボットが講演しているイメージか。

（事務局）

講演だったためワイプで直樹氏の顔が映っていたが、普段お客様とやりとりする時は映らない。ロボットカフェは日本橋にある非常に立派なお店である。

（西田委員）
　配膳ロボくらいの大きさか。

（事務局）
　まさにそのようなイメージである。

（永嶋委員）
　私の勤める大学も一時期 1 ヶ月間程エントランスにペッパーを置いていたが、維持するのに結構な額がかかっていた。

（事務局）
　ＮＰＯ法人の代表の方は、ロボットのリース代が毎月かなりかかっているとおっしゃっていた。

（永嶋委員）
　普及するとまた違ってくると思うが。

（事務局）
　やはり、普及と周知が非常に問題であると伺っている。

（永嶋委員）
　令和５年清瀬市２０歳のつどいの報告をお願いしたい。

令和５年清瀬市２０歳のつどいについて

（事務局）
　令和５年１月８日の日曜日に清瀬けやきホールで「２０歳のつどい」を開催する。新型コロナウイルス感染症防止の観点から、式典は昨年度同様２回に分けて開催する予定。
　当日は西田委員と松山委員にお越しいただく予定のため、当日の動きについてお伝えしたい。
　～当日の詳細について説明～
　複雑な部分が多いので、お二人にはまた個別にご連絡させていただく予定である。
　２０歳のつどいの説明は以上である。

（永嶋委員）

実行委員会の企画は何をやるのか。

（事務局）
恩師から２０歳の方々に向けたメッセージカードの展示、また、２０歳の方々から恩師へメッセージカードを送ろうという企画で展示の部屋を用意している。
会場では恩師からのメッセージ映像を流すが、先生方から、会場で映像を見た方々がどのような雰囲気や反応だったか分かると良い、という意見があったので、今度は２０歳の方々からメッセージを返そうということで、各部屋で中学ごとに分かれ色々なメッセージカードを貼ったりする予定。
例年、会場を出た２０歳の方々が裏の駐車場やホール前の歩道等に溜ってしまい交通の妨げになってしまうことがあるので、久々に顔を合わせ言葉を交わす場所にもなるということで、メッセージを書きながら友人と少しお話をする時間を提供することを考えている。

（永嶋委員）
それでは次第に沿って次に進みたい。清瀬市文化協会及び市民文化祭の今後の方向性についての意見交換なので、まず事務局から説明をお願いしたい。

３　意見交換

清瀬市文化協会及び文化祭の今後の方向性について

（事務局）
このテーマについて第３回と第４回の会議で意見交換をしていただいた。本日は、今までの意見の振り返り及び整理を行い、意見交換が出来ればと思っている。先日、議長と副議長と打合せを行った際、今後の進め方やスケジュールについてご意見があった。
～議長からのご意見～
「この議論は、文化協会から要望があって始めたものではないので、ご本人たちの意見を聞いていないうちに提言や報告としてまとめてしまうのは、少しやり方が乱暴になってしまうと思う。そのことが引っかかっていた。特に今の会長は、せめて私が会長のうちはこのままにして欲しい、という考えを持っているので、尚更会長の意に反するような提言を今年度中にまとめて社会教育委員から発信するのは、適切ではないと思う。確かに市から補助金を出しているので、より清瀬の文化振興を担っていただけるようになってもらいたいが、補助金を出していたとしても団体をコントロールはしてはいけないという社会教育法の規定があり、その精神に反してしまう。よって、今年度中ではなく令和５年１０月３１日までの私たちの任期を目一杯使い、議論しても良いと思う。例えば、令和５年２月の会議で文化協

会の方を実際にお呼びし意見交換を行って、４月６月と整理して９月の会議で何かしらの形でまとめるというスケジュールでも良いのではないか。」

議長からこのようなご意見があった。このご意見には齊藤副議長も賛同されており、事務局の方でもそのように思ったため、これに対し皆様に承認いただきたいと思っている。

お手元には、第３回と第４回のご意見のまとめを用意している。一番最後のページの「今までいただいたご意見の集約」というものが、文化祭の今後の方向性について第３回と第４回を集約したものである。あくまでも事務局がまとめたものなので、ご意見や助言をいただきたい。

それでは、第４回の会議でいただいたご意見をご覧いただきたい。まずは、前回の会議まとめについて説明させていただこうと思う。

永嶋委員からは、世代間交流の重要性というご意見があり、相蘇委員からも、ただ文化祭に参加するだけでなく若い世代に運営に関わってもらう必要性、についてご意見をいただいた。

松山委員からは、交流の場を作る必要性についてご意見があり、高井議長からも、世代を超えた交流の場の必要性についてご意見をいただいた。

続いて、今までいただいたご意見の集約案のページをご覧いただきたい。第３回と第４回の会議の意見を集約したが、意見の要として大きく二つのことがあると思った。

一つ目は、発表の場にとどまらず様々な文化活動をしている人たちの出会いの場を作り、世代を超えて繋がる機会を生み出すこと。

二つ目は、文化協会の理念、目的や方向性を再確認し、改めて協会内で共有し協会外にも周知をする。そして、理念や目的に沿った運営を行っていただく。

これら二つに集約されると考えたため、皆さまのご意見をいただきたいと思っている。これからは意見交換の時間にさせていただきたい。

（永嶋委員）

この集約案について検討していくということでよろしいか。

（事務局）

そのようにお願いしたい。

（永嶋委員）

事務局からご説明いただいたが、私の方で再度集約案を読ませていただこうと思う。

～集約案を復唱～

先ほど事務局から説明いただいたものを復唱する形になったが、何か新たに加えるとかこの部分は無い方がいい、などご意見があれば出していただきたい。

ちなみに集約したものはどこに向かって出すものなのか。

（事務局）
　文化協会に対して出すことを考えている。

（永嶋委員）
　社会教育委員の会議の話し合いの結果として出すものであるか。

（事務局）
　報告書もしくは提言書のような形でまとめることを考えているが、先ほどもご説明したが、議長から、そのような形でまとめるのであれば当事者の意見を聞いてからにすべきである、というご意見があったので、まずは文化協会の役員にお越しいただき、来年度も継続的に話し合うことを考えている。

（相蘇委員）
　文化協会は元々どのような目的と位置づけにある組織なのか。

（事務局）
　団体の代表が集まり、その中で役員を決めて運営している。

（相蘇委員）
　文化協会に所属している団体と所属していない文化団体が、清瀬市の中に混在しているということか。

（事務局）
　文化協会に入っている方だけが市民文化祭に参加出来るわけではなく、文化協会に入っていない団体も参加することができる。文化協会に入っている方と一般の方の参加費用は若干異なる。文化協会に入っている方たちは各団体の長が役員を担い、会合への参加、準備・運営・片付けなど様々なことを担うため、面倒だと感じる団体が多い。そのため、文化祭に出て色々な活動はしているが、文化協会には入らない団体さんが多い。昔はみんなでやりましょうという雰囲気だったが、今は、出演する時だけスポットで出れば良いという考えの方もいるので、若い人が文化協会に入らず人材不足になっていることを文化協会から聞いている。

（相蘇委員）
　文化協会自体の存続も含めて不透明な状況になっているという感じであるか。

（事務局）
　その通りである。一般の方が文化協会に入らずに市民文化祭だけを盛り上げるのであれば手の打ち方はたくさんあると思うが、文化協会に入会してくれる人がいなければ市民文化祭は盛り上がっても文化協会は年々先細りしてしまう。

（相蘇委員）
　文化祭の元々のスタートは、文化協会の合同発表会的な位置付けが「清瀬の文化祭」という形になってきたのか、それとも、「清瀬の文化祭」が元々存在して、そこに参加する文化協会の方々が当日の運営などを担って下さるようになったのか。それによっては、文化協会に入っていない方でも、「文化祭に参加する以上は運営に関わって下さい。ただ参加するだけじゃ駄目ですよ。」という風に、文化祭に参加する団体のメンバーが皆でその運営に関わるような形にすることが可能なのかどうかに関わってくると思う。

（事務局）
　おっしゃる通りである。団体内に役員を受けてくれる方がいなくなってしまい文化協会を脱会したが、市民文化祭には参加したいので一般参加者として出演する団体さんが出てきているということを会長から聞いている。おそらく、役員になることが重荷になっていることも一つの要因だと思う。高齢化が一番の理由だとは思うが。

（永嶋委員）
　元々文化協会があり、その発表の場として市民文化祭があったということなのか。それとも、市民文化祭が別にあってたまたまそこで文化協会としても発表するようになったのか。それによっても違うと思ったので伺いたい。

（事務局）
　おそらく市が主催で実施するのではなく、主体は地域住民に担っていただこうということで文化協会にお願いをして、元々は文化協会の発表の場であって、それが「市民文化祭」になっていると思う。それから、徐々に運営にお金が必要になってきて補助金を出し始め、市の一つのお祭りとして大きく成長してもらいたいという思いがあったかと思う。

（永嶋委員）
　現在、市民文化祭は市の企画なのか。

（事務局）
　後援という形である。全て文化協会が実施しているので、市事務局ではお金の取り扱いは一切していない。今回は、文化協会から展示用パネルが足りないので調達を協力してほしい

という相談があったため、生涯学習スポーツ課から学校にお願いし搬入搬出をお手伝いさせていただいた。以前は、文化協会が独自に社会福祉協議会からパネルを借りていたので、基本的には文化協会が全て準備を行っている。つまり、この補助金は文化祭実施のための備品運搬、ポスター・パンフレット作成、などの費用に充てている。

（永嶋委員）
　その費用は市から出ているのか。

（事務局）
　その他に一般出演者の参加費があるので、補助金に適さないような支出の部分はそれらの収入で賄っている。先ほど相蘇委員がおっしゃった市の立ち位置であるが、市の長期総合計画の方に「地域の活性化が図られるように、市民文化祭や様々な団体による自主的な活動を支援します。」ということが定められている。また、教育総合計画マスタープランでも市民文化祭の開催が明記されていて、これらに基づいて補助金を出し市が支援しているという形である。

（相蘇委員）
　文化協会が自主運営が難しくなってきている状態でこのまま続いていくようであれば、文化協会のご意見も重要だと思うがこの場で考える着地点としては、市も文化祭が計画として入っている以上今後はお金も人も出しますみたいになっていく可能性はあるということだと思う。要するに、後援だけなのか共催なのかというところがきっと今後変わっていかないと文化協会だけで文化祭を今の状態で維持することは難しい。それが、その市の計画的にいうとそこを軸に、「もっと文化を発展させましょう」という計画が長期的なマスタープランとかそういうところに入っている訳だとすれば、例えば、この文化協会さんの今後の意向とあわせて逆に清瀬市としては、どのようにそこに関わっていくかという立ち位置を変えなくてはいけないという可能性もあるということか。

（永嶋委員）
　おそらく、文化協会の構成団体の中で高齢化して後継者がいなくなっているのだと思う。そうすると、新たな団体もなかなか入ってこない。やはり、文化協会の中だけでやっていくというのは、今後は非常に厳しいと考えられる。そうなると、市が少し主導して例えば後継者を育てたりしていかないといけないと思うが、おそらく文化協会の団体だけではなく、例えば高齢者のサロンなどもそうだが、メンバーが固まってしまうと後の人たちが入りづらくなるということがある。新しいものは立ち上がるが、既存の団体はそのままのメンバーで高齢化して最終的にはなくなってしまう。文化協会も同じ構造なのかなと思った。そうすると文化協会の中だけでどうにかするというのが厳しい状況になりつつあるという感じを受

ける。

（玉置委員）
　この文化協会の問題というのは、2年前ぐらいから出てきた問題なのか。

（事務局）
　私も当課に来て 2 年目であるが、文化協会は後継者不足や会員が減ってしまっていることに対しては危機感を持っていると思う。
　文化協会の会員は、私たちの発表の場が市民文化祭だと思っている方が多いと感じる。文化協会には、清瀬の文化を広めていくという活動の理念があるが、なかなかそこまでいっておらず発表の場がメインになっているので、おそらく協会内ではそれほど何か変えなければいけない、というのは無いという印象である。今の会長が「私がいる間はこのままにしておいてほしい」という発言は、おそらく代々そういう形で引き継がれてきたのかと2年携わって感じている。市としては、「こういう形だったら文化協会の理念に近づけるのでは。」という提案を文化協会に行い、サポートしていきながら少しずつ上向きに持っていければ良いと思っている。

（玉置委員）
　私は今回都合がつかず行けなかったが、開場の様子はいかがであったか。

（事務局）
　例年よりも多く会場が賑わっていた。清瀬高校が今回出演してくださったが、高校生のダンスを見に来るだけではなく文化祭に興味を持って参加されてる方が多かったと思う。

（永嶋委員）
　運動系の団体は若い人たちが結構入ってきたりするのか。

（玉置委員）
　競技によるが、サッカー、野球やバスケなどの子どもが盛んな競技は賑わっているが、ゲートボールやグラウンドゴルフなどのシニアスポーツは、文化協会と同じで高齢化している。サッカーチームによってはお父さんがコーチになっていて、お父さん世代は若いのでそういうスタッフがいるところは団体の若返りが出来ている。よって、競技によって差が出てしまっている。ゴルフやラジオ体操などは、高齢化がかなり進んでいて苦しい状況である。

（永嶋委員）
　市民の運動会のようなものは無いのか。

（玉置委員）
　今は無く、マラソン大会も３年間実施できていない。今、地域の方が参加できるようなものを新しく企画している。清瀬の中でも盛んなところとそうでないところと地域差があると感じている。

（永嶋委員）
　子どもがやるような競技は、その保護者の方も参加する可能性があるので、そういうところで団体が若返ったり交流が生まれたりするのではないか。

（玉置委員）
　そのようなことをしたくて、今回発表の場のような感じで下宿で「スポーツカルチャーリサイタル」というお祭をやる予定である。体育協会が一緒にコラボレーションをして一緒にやろうとういうもの。空手、合気道、少林寺などは、親がやってるから子どもがやっているという部分があると思う。オリンピックなどで競技を見て、それがきっかけとなってやりたいと思う子どももいると思うが、今回のようにサッカーワールドカップのようなものがあればサッカーを始める子が増えると思うし、今度プロ野球の WBC もあるので野球人気に繋がると思う。何かきっかけがあれば注目されるが、マイナースポーツはなかなか競技人口が増えていないというのは、各連盟の課題となっている。

（永嶋委員）
　少し話がずれるが、私の大学で障害者プロレスの話題をしたことがあった。障害者プロレスというのは、当事者の方々が自らやりたいということでプロレス興行が始まり、３５年ぐらい続いている。見世物としてやるのではなく、自らやりたくて興行を行っていることに対してどのような考えを持つかということを授業で行った。その時、今の大学生はプロレスには全く関心がないという学生が結構多かった。プロレスは人気があり、ゴールデン枠で放送していたり、私の世代だと「空手バカ一代」という漫画で空手や武道は人気があったが、今の若い人は関心が無くなってきていると思った。運動の世界でも流行のようなものが随分変わってきていると感じたので、文化活動であれば尚更、若い人たちが日本の伝統文化的なものの活動にあまり関心を示さなくなっているかもしれないと思った。そう考えると、その若い世代がいかにそこに関心を持つのかを考えなければならないが、持たせようと思ってもなかなか持つものでもないと思うので、難しい問題である。

（相蘇委員）
　子供のスポーツは、子供は常に入れ替わっていくが、そうすると保護者も同時に入れ替わっていくので、常に世代は、小学校１年生から中学３年生までの間の子供とその保護者で成

立してると思う。文化系の方、私も、仕事をしていて清瀬の例えば市報などで団員募集とかであれば、一緒に何とかしませんかという告知が出ていたとしても、子育てをしているわけでもなく、自分が仕事で他地区にていて、週末しか市内にいないっていう人が参加できる文化団体ないんですよね。ほとんどの場合は平日の一時から３時とかそうでなければスポーツ系なんかは学校開放の関係もあるんでしょうか。夜とかっていうのはあるんですけど、文化系のものって、多分、昔は働いてる人達もできてたかもしれないけれども、皆さんの年齢が上がって、じゃあ、平日に集まれるしじゃ平日にお稽古の時間を取りましょうよ。そこだったらアミューホールが取れるからとか、そういう感じで多分、だんだん変わってきてしまったがゆえに、逆に新しい人が、部員募集と書かれてもいけないし、この時間じゃできないしっていうふうになってきちゃって、だから、その団体さんも、人を増やすふやすっていうことそうじゃない団体さんが、文化協会になるべく入ってきやすいような、そういうふうな形に、していかないと、人が変わっていかない。平日の夜にサークルをやりますよっていう人たちと、土日の、日中やりますよっていう人たちと同じ内容のサークルでもできるところが幾つかあれば、参加しようかなって思うとか、例えばそんなような、これが社会教育委員。としてどういうふうに提案できるかは別として、そういう風に広げていかないと、おそらく先細ったままで、協会さんの力で何とかするっていうのは難しくなってきているなと思う。

（西田委員）

茶道、編み物、フラワーアレジメントなど、そういった文化的なサークルがどんどん立ち上がっていったんだろうと思う。そのような人たちは発表の場は特に求めていなくて、自分が出来る時間が持てたらいいなと思っているのだと思う。文化協会の当事者の意見を聞くのはもちろんであるが、文化協会に入るメリットなどをもう１度考えた方が良いのではないか。

（事務局）

午前１１時から教育委員との懇談会に移るので、１０時５５分で会議を締めたいと思う。

最後に、事務局から皆様に一点報告がある。コミュニティプラザと竹丘・中里・中清戸地域市民センター、松山・竹丘集会所、そこに駅前の生涯学習センターも加わり、指定管理者を募集し選定委員会を行っていたが、今月１２月の議会定例会で議決された。現在清瀬けやきホールを運営していただいているアクティオ株式会社に決定した。期間は、令和５年４月から５年間で、学習センターのみ３年間である。報告は以上である。

（玉置委員）

公共施設予約システムから予約出来るのは変わらないか。

（事務局）

変わらない予定である。

最後に、「市民の生涯学習活動の支援」の意見交換について一点お伝えしておくが、前回第４回の会議からこのテーマについて議論いただいたが、先日議長と相談したところ、清瀬の柱になるような生涯学習や社会教育の事業の必要性を非常に感じているので、今後の会議で議論していきながら提言書や報告書のような形でまとめていければ良い、というご意見があった。議長から他区・他市の事例やアイディアを数点いただいたので、次回の会議で議長から説明していただく予定である。

事務局からは以上である。

（髙井議長）

以上で、令和４年度第５回清瀬市社会教育委員の会議を終了する。